

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 6月 26日
1階・2階共通

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2770108583		
法人名	医療法人一隅会		
事業所名	医療法人一隅会 グループホーム 美原		
サービス種類	地域密着型サービス 認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	堺市美原区太井91番		
自己評価作成日	平成 22年 5月 31日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所基本情報】

① 介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	
② 情報提供票を活用する場合	

① 基本情報リンクURLを記入 ② 別紙情報提供票のとおり

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
所在地	大阪市東住吉区山坂五丁目5番14-103号
訪問調査日	平成 22年 6月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

医療法人主体にて、理事長（医師）による週1回の定期往診以外に、臨時往診、緊急時の対応が速やかである。駐車スペースが広い為、車での来訪が便利である。建物周りには田んぼや畑があり、田植えや稲刈りの時期や豊富な花や野菜が見わたせられ、季節感を直に感じられる。地域密着型サービスとしての地域交流に積極的に取り組んでいる。（同区内の他グループホーム行事への参加）

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームのリビングから見渡すと田圃風景が広がっているが、秋になると稲穂が黄金色に染まり、騒音から離れて静かな心休まる風景となります。ホームは開設後4年6ヶ月になるが、運営法人の理事長である当ホームの運営者が、毎週、往診しているので、利用者、ご家族は安心して生活を続けている。尚、ホームは、国道から少し入っているが、近くの国道に交通信号があり、ホームの反対側には廣国神社という社があります。故事来歴によると、明治時代にこの付近の神社が統合されたとの由来があり、ご祭神は天照大御神、市杵嶋姫命、その他、昔の河内の鋳物師が尊崇された神々を祀っているようです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊重・安心は常に心掛け、満足の部分では、個々のニーズに応じての実践を目標としている	ホームの運営者、管理者は、法人理念の「尊重」「安心」「満足」が達成できるように職員を指導している		
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として、日常的に交流している	同区内の他グループホーム行事への参加、運営推進会議から地域の情報の提案をレクリエーションに活用している	区内の他のグループホームとの話し合いが出来ており、介護向上に役立てている		
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や、支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の一員として、区民まつりの敬老会への参加などの実践をしている。			
4	3	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1回開催実施。地域交流を深める目的にて、より多くの情報、意見が得られるように地域の参加者の増員を実践している	ホームの所在地は地域の生活環境から離れているので、開催によって多くの情報交流があり、介護に活かしている		
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター定例会議への参加、困難事例対応困難時には相談窓口として活用している	担当職員は、解決が困難な問題の解決について、市役所へ訪問して相談する等、連絡を密にしている		
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて、身体拘束しないケアに取り組んでいる	国道に面しており、玄関の開放は危険を回避できない現状である。職員間での行動制限指針・留意点等を共有し熟知できるよう勉強会を行い、危険回避を目的に利用者代理人の要望を優先的に配慮し、書面での説明・同意の上、取り組んでいる	玄関の施錠は已むを得ない面がある。職員の身体拘束への研修は、定期的実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○ 虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に自己啓発に心掛けるように指導、スタッフ会議での問題提議、啓発運動の必要性を講じている		
		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修参加によりパンフレットの用意、必要に応じて速やかに活用可能としているが、現時点までは利用の必要の該当者がいない		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	補足事項があれば、別途書面での交換、また確認事項項目として重要点に関しては、立会人を置き、書面上の説明、同意を得ている		
	6	○ 運営に関する利用者、家族等の意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員、並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じて、その都度電話にて状況報告をした上での意見は反映させていただいている	書面による連絡以外にも、必要に応じて電話によるの報告も行っている	
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や、提案を聞く機会を設け、すれらを反映させている	1ヶ月1回の会議への参加を義務付けており、職員の要望等、意見できる場、時間を設けている	会議以外でも、職員とはよく話し合っ改善に繋げている	
			○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている	本年度より能力給制を用い、向上心を持って勤務にあたる事ができるように試みている。	
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の時間が取りにくい現状から、DVD資料の活用で研修を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域GH交流会の参加により情報交換できる場がある。また他施設の運営推進会議への参加、受け入れなどからサービスの質の向上を目指している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○ 初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	自然な形で入所ができるように、管理者、職員が先頭に立ち、場に馴染めるように、メンタル的な配慮に重視している		
16		<p>○ 初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	介護面、医療面、経済面等、入所前面談時に意向の把握に努めている。		
17		<p>○ 初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	環境の変化に伴う不安を、体験入所形式により、満足できる支援ができるか否かを見極める機会を設けている		
18		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を支援される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	利用者と職員が共同生活上の一員として支え合う関係上、日課等に対してのやりがいを持てるように感謝状、表彰状を作成、贈与し、共感している		
19		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	居室内での面会の機会以外に運営推進会議や消防訓練への参加依頼し、協力を得ている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援	入所前の担当ケアマネや、利用施設関係者との交流機会があれば、積極的に面会できるように心掛けている。電話の取り次ぎにより、遠方の親戚・知人等とコミュニケーションを図れるように支援している	ご家族や、過去の関係者から聞くことにより、入手した情報の補充を心がけている	
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
21		○ 利用者同士の関係の支援	認知度や自立度に留意しつつ関わりを持てるよう共有部分での生活の場を確保している		
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○ 関係を断ち切らない取り組み	入院中の面会には出向くように努めているが、退所後の相談や支援は入院・入所先の専門職に委ねている		
		サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○ 思いやり意向の把握	入居前に本人、家族等からの意向を把握し、可能な限り反映、実現できるように努めている。	利用者と差し向かいで話し合うようにして、話しのきっかけを掴んでいる	
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
24		○ これまでの暮らしの把握	入所前の面談時点で把握できるように努めている		
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○ 暮らしの現状の把握	個々の利用者の希望が反映できるよう、現状のQOL（生活の質）及びADL（日常生活動作）の把握に努めている		
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の、現状の把握に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング	職員間で共有し、多方面からの見解によるアセスメントを行い、現状に即した計画の作成、見直しを行っている	毎月1回ケア・カンファレンスに2時間程掛けて、記録をとりながら、全職員と情報を共有している	
		○ 本人がより良く暮らすための課題と、ケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○ 個別の記録と実戦への反映	個別のケース記録表に日々時間ごとの様子や施行の記入を義務付けている。日々の情報以外で個別ケースカンファレンス時にも共有、活用している		
		○ 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	理事長（内科医＝主治医）による週1回の往診と看護師による健康管理を行っている。緊急時の即時対応（協力医療機関）への紹介体制も確立している		
		○ 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援や、サービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○ 地域資源との協働	社会福祉協議会のボランティアの活用により、演芸等の鑑賞等でQOLの向上に努めている		
		○ 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○ かかりつけ医の受診診断	主治医・看護師による定期的な往診、また必要に応じて連携医療機関での受診・検査の実施、入院等に備えた体制をとっている。	主治医は毎週水曜日に往診して頂いている。又、歯科医は毎週火曜日に往診して頂いている	
		○ 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
31		○ 介護職員との協働	異常の早期発見に努め、また主治医、看護師への報告義務を遵守するように指導している		
		○ 介護職員は、日常の関わりの中で、とらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○ 入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院時には、管理者もしくは看護師が付き添うようにし、入院先に正確な情報と経過の報告の上、家族の意向等を代弁するように努めている。必要に応じて介護サマリーの提供も行っている			
33	12	<p>○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	利用者と御家族の意向に留意し、かつ職員間での受け入れ状況の確認等、ケースバイケースである。看取り予測可能な疾患についてはあらかじめ看取りの同意書・確認書の交換を行い、職員間で見通しや方向性、対応方法を共有し対応している	看取りは原則的にはご家族、利用者との合意に従っている。過去2名様の見取りをさせて頂いている		
34		<p>○ 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	救命器具一式の配置をしている。使用方法の指導、教育を所内研修で行っている。また、順次、AED講習会への参加をしている			
35	13	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、全職員が身に付けると共に、地域との協力体制を築いている</p>	年2回の消防訓練への参加協力を近隣施設へ依頼し、協力を得ている。災害時連絡網を携帯持参し、有事の際は応援要請に応えられるように指導している	毎年2回避難訓練を行っている。今年には特にご近所の吉野家さんのご好意により、午後5時の合同での避難訓練を予定している		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	<p>○ 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りや、プライバシーを損ねない言葉かけや、対応をしている</p>	職員は、個々のプライバシーに関する理解を共有し、その確保に努力している。	一人の人間として尊重して対処するように、職員を指導している		
37		<p>○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が、思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	閉ざされた質問：イエスかノーの選択から、開かれた質問：何をどうしたい？といった選択ができるように自己決定権の表出を促している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○ 日々のその人らしい暮らし	可能な限り、起床や就寝時間や日課の参加など、本人の希望・要望を尊重し、無理強いしないように配慮している		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している			
39		○ 身だしなみやおしゃれの支援	希望者には馴染みの美容室や衣料用品店に出向き、買い物支援等を行っている		
		その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るように支援している			
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な部分でのお手伝い、盛り付けやテーブル拭き、食器拭きなどを日課に組んでいる。	朝食、昼食は仕入れ業者の食材から調理し、夕食はチルド解凍食を利用し、体重管理も行っている	
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取からの栄養摂取不足のある方は、栄養補助食品の補給を行い、二次疾患の発症に留意している		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限りでの食後のうがいの促し、義歯の洗浄を行っている。必要に応じて訪問歯科にての口腔ケアを行っている		
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている	尿もれ対応パンツの使用や排尿リサーチを行い、排泄パターンを把握し、可能な限り、誘導にてのトイレ排泄を促し、現状維持に努めている	管理シートにより一人ひとりに誘導等の支援を行っている	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の利用者により、水分摂取や簡易運動の促進に留意している。必要に応じては主治医指示下にて緩下剤の使用による排便コントロールを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように、職員の都合で、曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	現実、曜日・時間等の希望には添えないが、季節に応じてゆず風呂や菖蒲湯、入浴剤を使用して楽しんでいただいている	入浴の希望には、出来るだけ応ずるように配慮している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度に配慮している。必要に応じて、抱き枕や低反発枕の使用や足元センサーライトの使用をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	指示薬の情報をスタッフルームに掲示し、誤薬の予防と副作用の予防に努めている。症状の変化については逐次主治医に報告、指示に従っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持つ事により、生きがい、やりがいが見出せるように個々に応じての日課の選択に努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて初詣や花見等以外に、同区内の他グループホームでの陶芸教室へ参加している	体力的に外出が難しい方が増えているので、出来る範囲内で構内、近隣への散歩をしている	
50		○お金の所持や、使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	現在、金銭管理が不可能な利用者がほとんどで、個人的にお預かり金としては預かっておらず、家族の許可の上、立替金として買い物をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように支援している	電話の対応ができる方には、取り次ぎを行っている。有する能力に応じて年賀状の色塗り、氏名を書いたりといったできる事での支援を行っている		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、温度など)が無いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている	共用場所に生活感や季節感を取り入れて、利用者の合同作品(ちぎり絵)を展示し、達成感が少しでも持つことができるように支援している	リビングからの外の眺めは、田圃のため大空が広がり、眺めは素晴らしい	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	認知度や自立度に応じて、ダイニングテーブルの席配置に配慮している。また、スクリーンの使用等で、個別に過ごせるように工夫している		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている	入所前に使用されていた筆筒や時計などの持ち込みをしていただいている。フローリングに馴染めない方は絨毯を使用し、和室風に過ごされている	各自が、以前の習慣にしたがって家財を持ち込んでいる	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差等なくバリアフリーである。必要に応じて、夜間は足元センサーライトの使用や感知センサーの使用で転倒に留意している		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
58	利用者は一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどいない
64	通いの場やグループホームに、馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くない
66	職員は生き活きと働けている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに、おおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての家族が ② 家族の2/3くらいが ③ 家族の1/3くらいが ④ ほとんどいない